

# 中学保健体育科教育部会

## 体育分野における授業の効果的な指導法 指導形態や場の工夫

### I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、「体育分野における授業の効果的な指導法」に視点をあてる中で、生徒の実態に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力や言語活動を育成することや、授業内容の工夫・改善をすることにより生徒達により理解しやすく、基礎・基本の定着を図ること。そして、与えられた環境の中、より有効な場を提供することもより質の高い授業の展開が可能と考える。本年度も「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて本年度も継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

### II 研究の内容

#### 1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) 先進校の実践（資料）や各校での実践を通して情報交換を行い、研究していく。

#### 2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。  
〔1月「体育」(球技 ゴール型 バasketボール) 笛川中学校 武藤拓馬 教諭〕  
〔2月「体育」(武道 柔道) 山梨南中学校 桐原 洋 教諭〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

#### 3 授業実践：1

- (1) 単元名 「体育」(ゴール型 バasketボール) 中学2年生
- (2) 授業者 笛川中学校 武藤拓馬 教諭
- (3) 授業構想
  - ・Basketボールの基本動作を確認しながらゲームを楽しむ。
  - ・個人技能の課題解決とチームとしての課題解決の両面から授業を展開する。
  - ・グループで活動し互いに観察し、話し合い活動を取り入れる。(言語活動)
- (4) 学習過程での工夫
  - ・段階を踏んで練習に取り組みせ、はじめの段階では基本的技能や仲間と連携した動きを中心に行い、それを発展させていく中で、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。個人-グループ練習-(ゲーム)という授業形態をとった。
  - ・Basketボール部員の活用の工夫。

(5) 場の工夫

- ・課題解決学習を入れ、効果的な練習方法を提示し、学習させ、個人及びチーム力を伸ばしていけるよう工夫する。
- ・生徒が活動しやすいようにまた、動きのイメージが作りやすいようにラインやマーカーを使って簡易コートを作る。また、体育館壁に動き方の説明図を掲示する。

授業実践：2

(1) 単元名 武道「柔道」(中学1年生)

(2) 授業者 山梨南中学校 桐原 洋 教諭

(3) 授業構想

- ・基本動作と対人技能を関連づけ、受け身などの基本動作を習熟させながら各自の得意技へと発展させていく。

(4) 指導形態の工夫

- ・段階を踏んで練習に取り組ませていく。また、武道において重要な礼法についても考えさせる。
- ・2人組から3人組で交代しながら活動する。その中で交代しながら審判をしたり、教え合いながら活動する。

(5) 場の設定の工夫

- ・運動量の確保と安全面から始めのランニング、ストレッチ、基礎体力づくりのトレーニング、補強運動は体育館で行う。

### Ⅲ 成果と課題

授業実践を通し、学校の規模に応じた独自の指導方法や教材の使用、施設の利用など、特色ある授業形態を学ぶことができ、とても充実した研究になった。各校が、それぞれの場の工夫と、さらに学習資料を有効的に活用することでそれぞれの指導に役立てることができた。学習効果を高めたり、体育科の目標を達成するためには、個の能力に応じた目標や課題解決設定が不可欠となる。その目標達成や課題解決を図るためには、指導法や教材の工夫、場の工夫が必要とされる。本年度は、技術の系統性や難易度などにも注目した中、授業実践がなされ、研究を深めることができた。基礎基本の定着や、課題解決へ向けての活動、運動に積極的に取り組む姿勢を育てていくための手立てを学べたと考える。

来年度は、学習過程での手段でもある言語活動にも視野を広げ、体育の授業を通しての人間関係作りやコミュニケーション能力の育成が効率よくできる授業形態や場の工夫について授業展開をしていきたい。また、今後も各校より資料あるいは実践を持ち寄り、指導・研究に役立てていきたい。

[部 長 清水佐知子]